

令和元年度日本植物病理学会関西支部会のお知らせ

令和元年度関西支部会開催地委員長 鈴木一実

令和元年度日本植物病理学会関西支部会を下記のとおり開催致しますので、万障お繰り合わせの上、奮ってご参加下さいますようご案内申し上げます。

I. 会場と日程（時刻は予定です）

- ・会場：滋賀県立大学 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 (<http://www.usp.ac.jp/>)
- ・日時：令和元年 9 月 19 日（木） 12：00～ 受付 <交流センター、ホワイエ>
13：30～14：30 総会 <交流センター、ホール>
15：00～18：00 一般講演 <第 1～3 会場>
18：30～20：30 情報交換会 <キャンパス食堂 カフェテリア>
- 令和元年 9 月 20 日（金） 9：15～12：30 一般講演 <第 1～3 会場>

II. 参加申込

- ・締切：令和元年 7 月 31 日（水）
- ・費用：参加費 **3,000 円**（講演要旨集 1 部を含む、8 月 1 日以降は 4,000 円）、
：講演要旨集のみ 1 部 **2,000 円**、
：情報交換会費 **5,000 円**（学生 **3,000 円**）
- ・要領：同封の郵便振替払込取扱票（口座番号：00920-9-211859，加入者名：令和元年度日本植物病理学会関西支部会）（他行からの振込みをされる場合は、ゆうちょ銀行 店名：〇九九（ゼロキユウキユウ）店、当座、口座番号：0211859）に必要事項を記入し、締切日までにご送金ください。郵便振替払込取扱票による送金をもって部会参加の申し込みと致します。整理の都合上、払込用紙は参加者 1 名ごとに 1 枚をお使いください。払込用紙をさらに必要とされる場合は、郵便局に備え付けの用紙をご利用ください。その場合、通信欄に送金内訳と住所を記入して下さい。講演要旨集と名札/領収書は当日受付にてお渡しします。講演プログラムは 9 月初旬に学会 HP にて公開します。名札は領収書を兼ねますので、部会参加期間中は必ず携行してください。なお、当日参加されなかった場合には、講演要旨集と名札/領収書を後日お送りします。払込用紙の通信欄のコピーを名札および講演要旨集などの送り先情報として使いますので明確に記入して下さい。

III. 発表申込

- ・締切：令和元年 7 月 31 日（火） 17：00
- ・要領：発表ができるのは日本植物病理学会会員（令和元年度会費納入者）で、1 人 1 題のみとします。発表希望者は、末尾「講演要旨原稿作成要領」に従って講演要旨原稿を MS Word のファイルで作成し（講演要旨様式テンプレートファイル（R1Kansai_form.dotx）は、日本植物病理学会ホームページ {研究集会(2019)—関西支部会} からダウンロードできます）、E-mail 添付ファイルとして本年度の関西支部会プログラム編集委員会のアドレス（2019bukai_youshi@ses.usp.ac.jp）宛にご送付下さい。E-mail の題名（件名）は、「要旨」+「：」+「発表者氏名」として下さい。また、添付ファイル

名は「発表者氏名.docx」として下さい。原稿が正しく受け付けられた場合には、受け取りのメールを送付者宛に返送します。受け取りのメールは1〜3日で送付しますが、届かない場合は正しく受け付けられていない可能性がありますので再送付して下さい。講演要旨原稿送付をもって発表の申し込みと致します。なお、講演要旨は座長等による審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。

IV. 発表の形式と要領

- ・発表形式：発表は口頭のみで行います。ポスター発表は行いません。
- ・口頭発表要領：口頭発表は討論時間を含めて12分程度を予定していますが、演題数によって変更することがあります。

発表用ファイルは、前もってWindows版「PowerPoint 2013」で正常に表示されることを必ずご確認ください。ウイルスチェックをお済ませの上、**USBメモリー**に保存してください。ファイル名はすべて半角英数字で「講演番号-発表者姓.pptx」として下さい（例「001-Ito.pptx」）。発表用ファイルは、**部会初日に発表の方は19日午後2時までに、2日目に発表の方は19日午後5時30分までに、受付にてパソコンにコピーし動作確認をお願いします。**お持ちいただいたUSBメモリーはその場で返却致します。なお、サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので、なるべく軽いファイルをご準備ください。

V. 宿泊と交通

開催地事務局では宿泊・交通等の斡旋を行いませんので、各自で手配をお願い致します。会場の滋賀県立大学近辺には宿泊施設がありません。JR彦根駅あるいは南彦根駅周辺でのご宿泊をお勧めします。ビジネスホテルの数に限りがありますので、早めの宿の確保をお願い致します。

<会場までのアクセス>

- JR京都駅 → JR琵琶湖線普通 60分 → 「JR南彦根駅」下車、バスで15分／タクシーで8分
- JR京都駅 → JR琵琶湖線新快速 50分 → 「JR彦根駅」下車、バスで25分／タクシーで10分
- JR米原駅 → JR琵琶湖線普通 9分 → 「JR南彦根駅」下車、バスで15分／タクシーで8分
- JR米原駅 → JR琵琶湖線新快速 5分 → 「JR彦根駅」下車、バスで25分／タクシーで10分
- JR南彦根駅からバスでのアクセス：近江鉄道バス「南彦根駅西口」から乗車15分 → 「県立大学前」で下車。
- JR彦根駅からバスでのアクセス：近江鉄道バス「彦根駅」から乗車25分 → 「県立大学前」で下車。
- 駐車場（北・南駐車場）もございます。100台程度は駐車可能ですのでご利用ください。

VI. 昼食について

昼食は、食堂（カフェテリアおよびナシエリア）がご利用できます。大学近辺には飲食店およびコンビニエンスストアが数軒あります。

VII. 連絡先

令和元年度関西西部会の各種お問い合わせ等は関西西部会開催地事務局へお願い致します。

- ・令和元年度日本植物病理学会関西西部会開催地事務局

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 滋賀県立大学環境科学部

TEL : 0749-28-8326 (鈴木一実) , 0749-28-8328 (泉津弘佑)

FAX : 0749-28-8477

E-mail : 2019bukai@ses.usp.ac.jp

R1 年度関西西部会講演要旨原稿作成要領 (昨年度と同じです)

※講演要旨様式テンプレートファイル (R1Kansai_form.docx) が、日本植物病理学会ホームページ {研究集会 (2019)—関西西部会 (<http://www.ppsj.org/meeting.html>) } からダウンロードできます

<全体の大きさ>

- ・和文講演者氏名から所属略称までが、縦73 mm, 横161 mm の枠に収まるようにする。
- ・1つのファイルに収める講演要旨原稿は1つとすること。

<ページ設定>

- ・用紙サイズ：A4用紙, 縦方向。
- ・余白：上 15 mm, 下 30 mm, 左 25 mm, 右 25 mm。
- ・文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し, 文字数50, 字送り9 pt, 行数51, 行送り14 pt。

<配置>

両端揃え(所属略称のみ右端揃え)

<フォント>

- ・フォントサイズ：すべて9 pt。
- ・日本語用フォント：平成明朝またはMS明朝 (但し和文題目のみ平成角ゴシックまたはMSゴシック)。
- ・英数字用フォント：Times New Roman. すべて半角。
- ・句読点：「,」 「.」
- ・イタリック指定：題目, 本文中とも, 学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

<和文講演者氏名>

(1行) 講演者が複数の場合は中点「・」で区切り, 発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には, 上付き番号「¹」「²」で区別する。

<和文題目>

(2行以内) フォントは平成角ゴシックまたはMSゴシックとする

<英文講演者名と英文題目>

(2行以内) 氏名は, family name, first name initial, middle name initial の順に書き, initialの間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は, コロン「:」で区切る。

<本文>

9行以内で記載する。

<所属略称>

(1行) 括弧「()」に入れ, 右端揃えとする. 複数の場合は中点「・」で区切り, 和文講演者氏名に対応させて上付き番号「¹」「²」をつける.

<講演要旨原稿の下に, 以下の情報を記入>

- (1) 発表希望分野 (「菌類病」, 「細菌・ファイトプラズマ病」, 「ウイルス・ウイロイド病」, 「植物保護」の中から1つ選ぶ)
- (2) 発表内容 (「分類・同定」, 「検出・診断」, 「病原体の性状」, 「発生生態」, 「感染生理」, 「病原性・抵抗性」, 「防除薬剤・薬剤耐性」, 「生物防除・防除法」, 「その他」の中から1つ選ぶ)
- (3) 対象植物 (和名または学名で示す)
- (4) 対象微生物 (和名または学名で示す)
- (5) 原稿送付者の氏名
- (6) 原稿送付者のE-mailアドレス
- (7) 発表者の学会会員番号(会員番号は封筒の宛名シールに記載されています. 平成30年度会費未納の方は, 至急会費をお支払いください.)

講演要旨原稿の例 (本文は9行以内を厳守!)

○重吉沙衣¹・田中千尋²・宮川恒²・入江俊一¹・鈴木一実¹・泉津弘佑¹

全ゲノム比較手法に基づく Tolnifanide 耐性遺伝子の特定

Shigeyoshi, S., Tanaka, C., Miyagawa, H., Irie, T., Suzuki, K., and Izumitsu, K.: Identification of a Tolnifanide-resistant gene based on whole-genome comparison.

私たちは新規の殺菌剤の作用点を同定するために, ①耐性株を人為的に作出, ②次世代ゲノムシーケンサーで耐性点を同定, ③この薬剤耐性遺伝子を作用点の候補として実証実験を行う, というこれまでにない新しい手法を提案している. 本研究では作用点未解明の抗真菌性化合物 Tolnifanide をモデルに, 野生株と耐性株の全ゲノムを比較し, 耐性点候補として Geranylgeranyl transferase をコードする遺伝子 *Ggt1* の C406Y 変異を見出した. C406Y 変異型の *Ggt1* を野生株に導入したところ, Tolnifanide 耐性を示した. これにより, *Ggt1*^{C406Y} が Tolnifanide の耐性点であることが実証されると同時に, GGT1 が Tolnifanide の作用点である可能性が示唆された. そこで, GGT1 の推定下流因子 RHO3 に eGFP を融合した遺伝子導入株を作出し, 局在を観察した. 通常時には細胞内の膜構造に局在していた eGFP-RHO3 は, Tolnifanide 作用時には細胞質全体に広がり, 局在が乱れた. このことから, Tolnifanide が GGT1 に作用することによって, 下流因子の機能の攪乱を引き起こしていることが強く示唆された.

(¹滋賀県大院・環, ²京大院・農)

- (1) 「菌類病」
- (2) 防除薬剤・薬剤耐性
- (3) トウモロコシ
- (4) トウモロコシごま葉枯病菌
- (5) 重吉沙衣
- (6) xxxxx@ses.usp.ac.jp
- (7) xxxxx

<会場地図>

